

ハンケイ

5m

VOL.

11

FEATURE

ディーセントワーク・ラボ

中尾文香 さん

茶山sweets Halle

藤田公智 さん 深田幹大 さん

手をのばせばすぐふれられる。

そんな世界を知るマガジン



ハンケイ5mショップ 4月—6月イベント開催情報

COVER ART OF HANKEI 5m
今号の表紙アート

手をのばせば
すぐふれられる。
そんな世界を知るマガジン

作品名『ぜんぶきれい』

東環奈さんのデジタルアート

株式会社アドナースが運営する、重症心身障害児を対象とした、放課後等デイサービス「ごっこ」。小学生から高校生までの子どもたちが日々通い、絵の具を使ってみんなで一つの作品を作るなど、アート活動にも積極的に取り組んでいます。

今号の表紙は、そんな「ごっこ」に通う、中学2年生の東環奈さんによるデジタルアートです。支援学校の活動の中で描いたという本作は、ピンク、紫、青のやわらかい配色と色の滲みが美しく、心が癒されます。東さんは、生まれながらに脳性麻痺と難聴があり、意思伝達装置「スイッチ」を使って、iPadで作品を描きます。絵の右側に配置されたヒマワリはお絵かきアプリ「アイビスペイント」の素材で、印象的なコラージュになっています。本作は、社会福祉法人日本肢体不自由児協会が主催する「肢体不自由児・者の美術展 / デジタル写真展」のコンピュータアート部門で特賞を受賞しました。東さんは、家族と東京の授賞式に行ったのも良い思い出になったと、キューサイン*を用いて笑顔で話してくれました。

アート以外にも、スイッチやキューサインというツールを使いこなししながら、自分を表現する東さん。スイッチを使って手紙を書くのも大好きだそう。東さんから湧き出る創作意欲に、元気をもらいました。

*キューサインとは、子音を手で、母音を口の形で表して会話する手法。

放課後等
デイサービス
にこ
Instagram

アドナース
京都音楽療法
センター
Instagram

放課後等
デイサービス
ごっこ
Instagram

ハンケイ 5m vol.11

CONTENTS

表2 ハンケイ 5m ショップ
4月～6月イベント開催情報

FEATURE 1

02 中尾文香さん

「働くすべての人に喜びと安心を」
その実現を目指し活動する
NPO法人ディーセントワーク・ラボ

FEATURE 2

06 藤田公智さん

深田幹大さん
中で働く人の顔が見える、
小さな洋菓子店「茶山 sweets Halle」

10 俊朗の映画話

薬剤師DJの音楽論

11 ホホホのすすめ

人形つかいバペの話

12 PICK UP NEWS

私が半径5mで見つけたおすすめスイーツ
あつまれ！ハンケイ 5m

13 ハンケイ 5m vol.11 発行にあたり

RECOMMENDED CINEMA

京都・四条烏丸にある、ハンケイ5mショップでは、店内にてさまざまなイベントやワークショップを開催しています。最新情報は各種SNSにて発信中！ぜひフォローしてください。



ハンケイ5mショップ
Instagram
@hankei_5m_shop



ハンケイ5mショップ公式LINE
オンラインショップ・入荷情報は
こちらをチェック！

ハンケイ5mショップ

京都市下京区烏丸通四条下ルからす
ま京都ホテル内1F(京都市営地下鉄「四
条駅」南出口6番 徒歩1分、阪急「烏丸駅」
西出口23番 徒歩1分) / OPEN 月・水・
金・土 11時～19時 / TEL.080-8500-8236
臨時休業は、Instagram・公式LINEにてお
知らせいたします。予めご了承ください。



4月

アートキャンバスサブスクサービス
「amiami」

4月6日(土)～5月6日(月) ※最終日は17時まで

障害があるアーティストの作品を届けるサ
ブスクサービス「amiami」のフェアを開催
します。アートキャンバスのサブスクリプ
ション登録をすると、その日にアートキャ
ンバスをお持ち帰りいただけます。さまざま
な作品からお気に入りを見つけてみてく
ださい！グッズ販売もあります。



5月

アトリエやっほう!!
5月10日(金)～31日(金)

※最終日は14時まで

京都市伏見区の福祉施設「京都市ふしみ学園」のアート班「アトリエ
やっほう!!」の小寺由理子さんによる作品展示とグッズ販売を行いま
す。心が「やっほう!!」と踊るような作品を、ぜひご覧ください。



6月

ディーセントワーク・ラボ
6月3日(月)～29日(土)

今号の特集(P2)でも紹介している「ディーセントワーク・ラボ」は、一人ひと
りの役割を認識することができる環境をつくり、障害のある人の仕事を、さ
まざまな業界のプロと共に見つめなおす活動を行っています。この期間中
は、同法人の商品ブランド「equalto」の商品が並びます。



ハンケイ5mショップのラジオ番組 放送中！
番組名「あつまれ！ハンケイ 5m」

放送日時 毎週月曜 11:00～11:06
FM79.7MHz 京都三条ラジオカフェ

無料ラジオアプリ
「Listen Radio(リスラジ)」で
ご視聴いただけます。

「誰もが安心して働く社会」の実現を目指して

～福祉と社会をつなぐ「ディーセント・ワーク」の可能性～

「働く」とは、何だろう。コスト・パフォーマンスや生産性、労働力の確保や賃上げの話題――。数字を尺度として語られる世界の外側には、もっと深くて、本質的な地平が広がっている。「NPO法人ディーセント・ワーク・ラボ(DWL)」の代表理事を務める中尾文香さんは、「働く」とを通じて社会と福祉をつなぎ、障害の有無を問わず、誰もが安心して働く社会の実現を目指している。

法人名にある「ディーセント・ワーカー」(働きがいのある人間らしい仕事)は、国連が定めたSDGs(持続可能な開発目標)の8番目で登場する考え方だ。

「新たな変化に挑もうとする時、当たり前のように『できない』という壁が立ちはだかります。でも、どうすれば『できる』のかをみんなで考

え、目標に向かって一つ一つ積み重ねていく以外に、現状を変える方法はありません。私たちは働く人や組織の間で変化を起こす『エンジニアージェント』として、誰もが本来持っている力を、十分に発揮できる環境づくりに取り組んでいます」。

DWLの活動には3つの軸があ

る。障害がある人と、その環境の強みを見つけ、活かす方法を提案する「ソーシャルワーカー」。企業が障害革する仕組みづくりや、SDGsにつながる戦略を立案する「コンサルタント」。そして、就労支援の専門家

の知識や経験、つながりを活かし、あらゆる人の「ディーセント・ワー

ク」を追求する「研究者」。これら3

業で雇用されることが難しい人たち

つた。

一方で、障害や病気により一般企

業で雇用され

るこ

と

ど

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

い

う

な

く

な

が働く就労支援施設で支払われる工賃(賃金)は、依然として低い水準のままだ。とりわけ全国一万五千三百四十四ある就労継続支援B型事業所の22年度の平均工賃は月額一萬七千円、時間額に換算すると243円に過ぎない。

中尾さんは「一生懸命働いても、経済的な自立にはほど遠いのです。この状況を何とか変えたいと思いました。それがDWLの活動の原点です」と話す。大学卒業後しばらくして、前身となる活動を始め、2013年6月にNPO法人ディーセントワーク・ラボを設立。事業所で働く人たちの個性を活かし、そこで作られる

お菓子やアクセサリー、生活雑貨などの附加価値を高めるため、デザインの力で支援する「equalto(イクオルト)」という取り組みをスタートした。

「障害がある人の賃金を上げること

は、とても大事なテーマです。ただ、全員が同じように働いてお金を稼げ

るわけではありません。だからこそ、

地域や社会の中で役割があり、役に立っていると実感できることが重要だ

と考えるようになりました」。

すべての人が、自分らしく働きがいのある仕事(ディーセント・ワー

ク)や生きがいのある役割(ディー

セント・ロール)を持ち、それを周囲の人たちとも認め合う社会を実現すること。DWLが掲げるビジョンは、中尾さん自身の経験と、大学時代に学んだ「実践としての福祉」という考え方を色濃く反映している。

大切なものの実現のために
格闘し続ける営みが「福祉」

「直接的には関わっていないのですが、振り返って『やっぱりそこだな』と思うのは、弟の存在です」。5歳下の中尾さんの弟は、生後8ヶ月で事故による脳内出血を負い、9時

「みんな、すごく明るかったんですね。色々な話を聞かせてくれたし、一緒に楽しめた」。『障害があるのはかわいそうなこと』ではなく、世の中には色々な人がいる。また『できることだってたくさんある』といふ当たり前の事実を、弟やそこで出会った人たちと過ごす時間の中で知ることができました」。

将来は人と関わる仕事がしたい。

そんな漠然とした思いを抱いて、中尾さんは高校卒業後、埼玉県立大学の社会福祉学科に進学する。当時開

学3年目だった大学は、新たな創造のエネルギーに満ちていた。

「大学の先生が全員、実践家の先

生だったんです。戦後の日本の福祉制度を実際に作ってきた方たちばかり」。障害福祉や児童福祉などあらゆる分野の先生から、現場でのリアルなエビソードを直接聞くことができました」。

実践家である先生たちが、口を揃

经济的な自立にはほど遠いのです。この状況を何とか変えたいと思いました。それがDWLの活動の原点です」と話す。大学卒業後しばらくして、前身となる活動を始め、2013年6月にNPO法人ディーセントワーク・ラボを設立。事業所で働く人たちの個性を活かし、そこで作られる

間近くに及ぶ大手術で奇跡的に一命を取り留めたものの、身体障害と周囲の障害の後遺症が残った。中尾さんは小学生の頃から、弟が通うリハビリーションセンターや病院を母と一緒に訪れた。そこには、事故や病気によつて障害を負った子どもから高齢者など、さまざまな人たちがいた。

「みんな、すごく明るかったんですね。色々な話を聞かせてくれたし、一緒に楽しめた」。『障害があるのはかわいそうなこと』ではなく、世の中には色々な人がいる。また『できることだってたくさんある』といふ当たり前の事実を、弟やそこで出会った人たちと過ごす時間の中で知ることができました」。

将来は人と関わる仕事がしたい。

そんな漠然とした思いを抱いて、中尾さんは高校卒業後、埼玉県立大学の社会福祉学科に進学する。当時開

学3年目だった大学は、新たな創造のエネルギーに満ちていた。

「大学の先生が全員、実践家の先

生だったんです。戦後の日本の福祉制度を実際に作ってきた方たちばかり」。障害福祉や児童福祉などあらゆる分野の先生から、現場でのリアルなエビソードを直接聞くことができました」。

実践家である先生たちが、口を揃

经济的な自立にはほど遠いのです。この状況を何とか変えたいと思いました。それがDWLの活動の原点です」と話す。大学卒業後しばらくして、前身となる活動を始め、2013年6月にNPO法人ディーセントワーク・ラボを設立。事業所で働く人たちの個性を活かし、そこで作られる

お菓子やアクセサリー、生活雑貨などの附加価値を高めるため、デザインの力で支援する「equalto(イクオルト)」という取り組みをス

タートした。

「障害がある人の賃金を上げること

は、とても大事なテーマです。ただ、全員が同じように働いてお金を稼げ

るわけではありません。だからこそ、

地域や社会の中で役割があり、役に立っていると実感できることが重要だ

と考えるようになりました」。

すべての人が、自分らしく働きがいのある仕事(ディーセント・ワー

ク)や生きがいのある役割(ディー

セント・ロール)を持ち、それを周

囲の人たちとも認め合う社会を実現すること。DWLが掲げるビジョンは、中尾さん自身の経験と、大学時

代に学んだ「実践としての福祉」という考え方を色濃く反映している。

が働く就労支援施設で支払われる工賃(賃金)は、依然として低い水準のままだ。とりわけ全国一万五千三百四十四ある就労継続支援B型事業所の22年度の平均工賃は月額一萬七千円、時間額に換算すると243円に過ぎない。

中尾さんは「一生懸命働いても、経済的な自立にはほど遠いのです。この状況を何とか変えたいと思いました。それがDWLの活動の原点です」と話す。大学卒業後しばらくして、前身となる活動を始め、2013年6月にNPO法人ディーセントワーク・ラボを設立。事業所で働く人たちの個性を活かし、そこで作られる

お菓子やアクセサリー、生活雑貨などの附加価値を高めるため、デザインの力で支援する「equalto(イクオルト)」という取り組みをス

タートした。

「障害がある人の賃金を上げること

は、とても大事なテーマです。ただ、全員が同じように働いてお金を稼げ

るわけではありません。だからこそ、

地域や社会の中で役割があり、役に立っていると実感できることが重要だ

と考えるようになりました」。

すべての人が、自分らしく働きがいのある仕事(ディーセント・ワー

ク)や生きがいのある役割(ディー

セント・ロール)を持ち、それを周

囲の人たちとも認め合う社会を実現すること。DWLが掲げるビジョンは、中尾さん自身の経験と、大学時

代に学んだ「実践としての福祉」という考え方を色濃く反映している。

が働く就労支援施設で支払われる工賃(賃金)は、依然として低い水準のままだ。とりわけ全国一万五千三百四十四ある就労継続支援B型事業所の22年度の平均工賃は月額一萬七千円、時間額に換算すると243円に過ぎない。

中尾さんは「一生懸命働いても、経済的な自立にはほど遠いのです。この状況を何とか変えたいと思いました。それがDWLの活動の原点です」と話す。大学卒業後しばらくして、前身となる活動を始め、2013年6月にNPO法人ディーセントワーク・ラボを設立。事業所で働く人たちの個性を活かし、そこで作られる

お菓子やアクセサリー、生活雑貨などの附加価値を高めるため、デザインの力で支援する「equalto(イクオルト)」という取り組みをス

タートした。

「障害がある人の賃金を上げること

は、とても大事なテーマです。ただ、全員が同じように働いてお金を稼げ

るわけではありません。だからこそ、

地域や社会の中で役割があり、役に立っていると実感できることが重要だ

と考えるようになりました」。

すべての人が、自分らしく働きがいのある仕事(ディーセント・ワー

ク)や生きがいのある役割(ディー

セント・ロール)を持ち、それを周

囲の人たちとも認め合う社会を実現すること。DWLが掲げるビジョンは、中尾さん自身の経験と、大学時

代に学んだ「実践としての福祉」という考え方を色濃く反映している。

が働く就労支援施設で支払われる工賃(賃金)は、依然として低い水準のままだ。とりわけ全国一万五千三百四十四ある就労継続支援B型事業所の22年度の平均工賃は月額一萬七千円、時間額に換算すると243円に過ぎない。

中尾さんは「一生懸命働いても、経済的な自立にはほど遠いのです。この状況を何とか変えたいと思いました。それがDWLの活動の原点です」と話す。大学卒業後しばらくして、前身となる活動を始め、2013年6月にNPO法人ディーセントワーク・ラボを設立。事業所で働く人たちの個性を活かし、そこで作られる

お菓子やアクセサリー、生活雑貨などの附加価値を高めるため、デザインの力で支援する「equalto(イクオルト)」という取り組みをス

タートした。

「障害がある人の賃金を上げること

は、とても大事なテーマです。ただ、全員が同じように働いてお金を稼げ

るわけではありません。だからこそ、

地域や社会の中で役割があり、役に立っていると実感できることが重要だ

と考えるようになりました」。

すべての人が、自分らしく働きがいのある仕事(ディーセント・ワー

ク)や生きがいのある役割(ディー

セント・ロール)を持ち、それを周

囲の人たちとも認め合う社会を実現すること。DWLが掲げるビジョンは、中尾さん自身の経験と、大学時

代に学んだ「実践としての福祉」という考え方を色濃く反映している。

が働く就労支援施設で支払われる工賃(賃金)は、依然として低い水準のままだ。とりわけ全国一万五千三百四十四ある就労継続支援B型事業所の22年度の平均工賃は月額一萬七千円、時間額に換算すると243円に過ぎない。

中尾さんは「一生懸命働いても、経済的な自立にはほど遠いのです。この状況を何とか変えたいと思いました。それがDWLの活動の原点です」と話す。大学卒業後しばらくして、前身となる活動を始め、2013年6月にNPO法人ディーセントワーク・ラボを設立。事業所で働く人たちの個性を活かし、そこで作られる

お菓子やアクセサリー、生活雑貨などの附加価値を高めるため、デザインの力で支援する「equalto(イクオルト)」という取り組みをス

タートした。

「障害がある人の賃金を上げること

は、とても大事なテーマです。ただ、全員が同じように働いてお金を稼げ

るわけではありません。だからこそ、

地域や社会の中で役割があり、役に立っていると実感できることが重要だ

と考えるようになりました」。

すべての人が、自分らしく働きがいのある仕事(ディーセント・ワー

ク)や生きがいのある役割(ディー

セント・ロール)を持ち、それを周

囲の人たちとも認め合う社会を実現すること。DWLが掲げるビジョンは、中尾さん自身の経験と、大学時

代に学んだ「実践としての福祉」という考え方を色濃く反映している。

が働く就労支援施設で支払われる工賃(賃金)は、依然として低い水準のままだ。とりわけ全国一万五千三百四十四ある就労継続支援B型事業所の22年度の平均工賃は月額一萬七千円、時間額に換算すると243円に過ぎない。

中尾さんは「一生懸命働いても、経済的な自立にはほど遠いのです。この状況を何とか変えたいと思いました。それがDWLの活動の原点です」と話す。大学卒業後しばらくして、前身となる活動を始め、2013年6月にNPO法人ディーセントワーク・ラボを設立。事業所で働く人たちの個性を活かし、そこで作られる

お菓子やアクセサリー、生活雑貨などの附加価値を高めるため、デザインの力で支援する「equalto(イクオルト)」という取り組みをス

タートした。

「障害がある人の賃金を上げること

は、とても大事なテーマです。ただ、全員が同じように働いてお金を稼げ

るわけではありません。だからこそ、

地域や社会の中で役割があり、役に立っていると実感できることが重要だ

と考えるようになりました」。

すべての人が、自分らしく働きがいのある仕事(ディーセント・ワー

ク)や生きがいのある役割(ディー

セント・ロール)を持ち、それを周

囲の人たちとも認め合う社会を実現すること。DWLが掲げるビジョンは、中尾さん自身の経験と、大学時

代に学んだ「実践としての福祉」という考え方を色濃く反映している。

が働く就労支援施設で支払われる工賃(賃金)は、依然として低い水準のままだ。とりわけ全国一万五千三百四十四ある就労継続支援B型事業所の22年度の平均工賃は月額一萬七千円、時間額に換算すると243円に過ぎない。

中尾さんは「一生懸命働いても、経済的な自立にはほど遠いのです。この状況を何とか変えたいと思いました。それがDWLの活動の原点です」と話す。大学卒業後しばらくして、前身となる活動を始め、2013年6月にNPO法人ディーセントワーク・ラボを設立。事業所で働く人たちの個性を活かし、そこで作られる

お菓子やアクセサリー、生活雑貨などの附加価値を高めるため、デザインの力で支援する「equalto(イクオルト)」という取り組みをス

タートした。

「障害がある人の賃金を上げること

は、とても大事なテーマです。ただ、全員が同じように働いてお金を稼げ

るわけではありません。だからこそ、

地域や社会の中で役割があり、役に立っていると実感できることが重要だ

と考えるようになりました」。

すべての人が、自分らしく働きがいのある仕事(ディーセント・ワー

ク)や生きがいのある役割(ディー

セント・ロール)を持ち、それを周

中で働く人の顔が見える、
小さな洋菓子店
「茶山 sweets Halle」

FEATURE 2
ワークセンター長
藤田公智さん

叡山電鉄茶山・京都芸術大学駅

中で働く人の顔が見える、
小さな洋菓子店
「茶山 sweets Halle」

ワークセンター長
藤田公智さん



—「茶山 sweets Halle」では「京都の素材のおいしさを、お菓子を通して伝えたい」という思いから、ワークセンターHalle! と、お菓子作りに込めた思いについて聞いた。

「美味しい」から選ばれるお菓子を目指す。

に通う利用者の方とパティシエが、日々、美味しいお菓子を製造されています。

厳選された京都府産の逸品素材を使ったお菓子は、コンテストでグランプリに選ばれるなど、高い評価を受けています。

ありがとうございます。パティスリー「茶山 sweets Halle」で提供しているお菓子はすべて、ワクセンターハレの製菓班が手作りしています。製菓班は利用者9人をはじめ、専属パティシエ2人、支援スタッフ一人が在籍しています。

運営母体は社会福祉法人修光学園で、約3年前から、障害がある利用者と一緒に洋菓子製造を行ってきました。現在の製菓班の前身にあたる「HOLY LAND」を2004年に京都市左京区で開設し、そこでは焼き菓子やケーキなど様々なお菓子作りに取り組んできました。そのノウハウを活かし、パティスリー「茶

山 sweets Halle」では地元・京都府産の厳選素材を使って洋菓子を製造販売しています。

南丹市美山町と左京区久多で採れるトチの蜂蜜を使った『蜜玉まどりぬ』、米をテーマにした府内産食材のバウムクーヘン『米幸（こめこ）バウム』は、お菓子コンテストでグランプリや審査員優秀賞をいただきました。

「福祉の授産品」ではなく、純粋に「美味しい」という理由で選ばれるお菓子を目指しています。そのため、専属パティシエが知恵を絞り、素材やレシピは徹底してこだわっています。また、府内の生産者の方々とも交流し、農業と福祉が融合した農福連携の取り組みをしながら、京都の特産素材を使った新たなお菓子作りにも力を入れています。

—京都ならではの素材と、製菓班のみさんの丁寧な仕事によって、食べた人が笑顔になる美味しいスイ

ーツが生み出されているのですね。

従来から福祉作業所が製造している授産品は、低価格で販売することが半ば当たり前のように考えられていました。「茶山 sweets Halle」で販売しているお菓子は、バウムクーヘンが一500円などは一個250円前後と、一般的な洋菓子店と同程度の価格です。厳選した素材でしっかりと商品を作っている以上、相応の価格で販売することを大切にしています。

利用者は自分たちが作るお菓子を、店舗で販売することで、自分の価値を認められる。また、お客様の姿を目の当たりにでき、自信にもつながっています。働いている利用者の方たちが正当な工賃を得て、障害年金と合わせて一人暮らしができることを実現するためには、ぶれずに挑戦することが必要だと思っていました。

引き店内に一步入れば、ふんわりとしたバターの香りに包み込まれる。カウンターには名物のバウムクーヘンやマドレーヌ、クッキーなどの焼き菓子を中心に約30種のスイーツがあり。窓から見える工房では、コックコートにエプロン姿の人たちが真剣な表情でお菓子作りに励んでいる。

2018年1月のオープンから今まで7年目を迎えたこのパティスリーは、障害の有無に関わらず地域の中でともに働く場として、就労継続支援B型施設「ワークセンターHalle!」が運営している。目指すのは、京都府特産の厳選素材を活かしたお菓子作りと、住み慣れた地域で一人暮らしが実現できるような高工賃の仕事を創出すること。センター長の藤田公智さんに、ワークセンターHalle!の取り組みと、お菓子作りに込めた思いについて聞いた。





茶山sweets Halle

京都丹波産の風味豊かなこだわりの卵をはじめ、美山の貴重なトチ蜂蜜、京丹後の海が育んだ手作り塩、水尾の柚子、宇治田原の抹茶、大原・百井の菊芋など、京都府内で生産される厳選素材を使った焼き菓子を中心に、スイーツを製造販売している。伏見区の農家から仕入れる「米粉」、鶏の飼料に米を与えた「米卵」、米と麦芽を糖化させて作る甘味料「米あめ」で作るバウムクーヘン『米幸(こめこ)バウム』は、2019年の「パティスリー あすのKyotoカップ」グランプリと、100人の一般投票で決まる審査員優秀賞をW受賞。一部の商品はインターネット通販でも購入できる。

【住所】京都市左京区田中北春菜町14ー1(叡山電鉄_{茶山・京都芸術大学駅}から徒歩1分)
【営業時間】10時~17時 【定休】日、月、第1・3・5土曜 【TEL】075-706-2402



オンラインショップは
こちらから



一流の設備とみんなの技術で 他にない新しいスイーツを生み出したい

ふか だ もと ひろ
パティシエ 深田幹大さん

パティシエの深田幹大さんは、「茶山sweets Halle」の新商品のレシピ開発や、製造作業のアドバイスを行っている。製菓の専門学校を卒業後、京都市内の有名洋菓子店で修行を積んだ深田さん。知人の紹介を受け、約10年前に「HOLY LAND」に転職した。

「利用者の皆さんのが僕を受け入れてくれるかどうか、最初は不安があつたんです」。そんな深田さんに、製菓班のリーダー的な存在だった利用者の男性が積極的に声をかけてくれたという。「おかげで他のみんなも話しかけてくれるようになつて、打ち解けるきっかけをつかめました。今

もパティシエとして続けることができているのは、その方の存在が大きいです」と振り返る。

工房には大型オーブンをはじめ、バウムクーヘン専用オーブン、スクームコンベクションと3台のオーブンがそろう。泡立て器やゴムべらなどもすべてプロ用の調理道具を使っている。深田さんは「これだけの設備がそろったパティスリーは、そう

はありません。設備とみんなの技術が合わさって、他にはない新しいスイーツが生まれます」と話す。

工房で働いている様子が「小さな子どもでも見えるよう」カウンタ一横の窓は床からの高さを80センチ

ほどと、あえて低く設計している。製菓班の藤原達也さんと吉田裕美さんが、成形したクッキー生地を一枚ずつ鉄板の上に並べていく。丁寧で

テンポの良い手さばきは、まさに熟練の製菓職人。深田さんは「障害のある人が『お菓子を作っている』仕事をしている」ということを、身近に感じてもらいたい。それが一番の思いです」という。

スイーツは作り手の人柄を物語る。愛と、希望と、情熱と。レシピに込めた思いの深さが、「茶山sweets Halle」のお菓子を格別な味わいに仕上げている。

ハンケイ 5m

手をのばせば
すぐふれられる。
そんな世界を知るマガジン

vol.11
発行にあたり

「equalto」の
可愛い色合いの商品に心躍ります！
5mショップに行くぞ～！
鈴木穂乃(編集)

ハンケイ
5m
vol.11

2024年4月8日発行

発行 株式会社アドナース
京都市西京区大原野西境谷町2丁目14-10
075-754-6174

株式会社ユニオン・エー
京都市左京区北白川西平井町22-2
075-724-0410

企画・制作 株式会社ユニオン・エー

Staff 円城新子
山田梨世
吳玲奈

中山みゆき 鈴木穂乃
久野泰輝 木村実那子
福島明彦
龍太郎
辻正美
北原靖浩
もりはなぐみ

スペシャルアドバイザー 鎌田智広

障害がある人が働きやすい職場は
誰もが働きやすい職場。
目から鱗の言葉でした。
円城新子(編集)

働くこと、生きる糧、人と人のつながり。
きれいごと?いや、ほんとうのことだ。
龍太郎(ライター)

やわらかで幻想的な色彩のたゆたいのなか、
凛とした心象のアクセントがある東環奈さんのアート。
その緩急の美しさに魅せられました。
森 華(デザイン)

最近、身近にある素敵なおもいがあります。
タダだから気が付いていない価値あるものが
ハンケイ5mにはあります。
鎌田智広(スペシャルアドバイザー)

「働く」とは、何だろう。
じっくり考えなおしたいと思いました。
久野泰輝(編集)

「制度は作るものだ」
他人事ではなく
考えていきたいです。
中山みゆき(編集)

「equalto」の商品、
家にひとつ置きたくなりました。
木村実那子(編集)

Halle!で働く皆さんの雰囲気が大好き。
人との出会いが人生を豊かにする。
山田梨世(編集)

「むずかしいことをやさしく、
やさしいことを深く、深いことを面白く」。
故・永六輔さんの言葉をかみしめます。
呉玲奈(編集)

あたたかみのある
equaltoの商品の数々。
置いてるだけで
日常がほっこりしそうです。
北原靖浩(デザイン)

『ダイバーシティ&インクルージョン』
自分には何が出来るのか...、
何が出来ていないのか...、
辻正美(カメラ)

あらゆる人々が働きやすく、生きやすい社会の
実現を目指す一員になることを決意しました。
福島明彦(校正)

RECOMMENDED CINEMA

京都シネマおすすめ映画



4/12(金)公開
かづゑ的

2023 | 日 | 119分
監督:熊谷博子
©Office Kumagai 2023
<https://www.beingkazue.com/>

アップリンク京都おすすめ映画



5/17(金)公開
ありふれた教室

Das Lehrerzimmer | 2022
独 | ドイツ語 | 99分
スタンダード | 5.1ch
監督・脚本:イルケル・チャタク
出演:レオニー・ベネシュ
© if... Productions/ZDF/arte MMXXII

国立ハンセン病療養所「長島愛生園」で暮らす、宮崎かづゑさんの毎日を8年かけて取材したドキュメンタリー。病気の影響で手の指や足を切断、視力もほとんど残っていないにもかかわらず、78歳でパソコンを覚え、84歳に本を出版。「できるんよ、やろうと思えば。」いつも新しいことに挑戦する“かづゑ的”姿勢は、生き抜くために必要な愛情と知識の大切さを教え、勇気と元気をくれる。

上映情報のご確認はこちら——
京都シネマ www.kyotosinema.jp
京都市下京区烏丸通四条下西側 COCON烏丸3F ☎ 075-353-4723

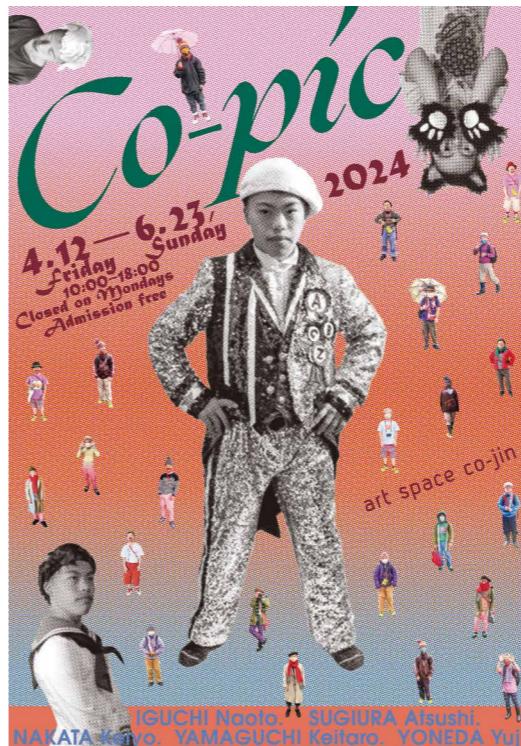
ある中学校に赴任してきたポーランド系ドイツ人女性のカーラは、仕事熱心で責任感が強い若手教師。そんなある日、校内で相次ぐ盗難事件の犯人として、カーラの教え子が疑われる。校長たちの強引な調査に反感を覚えたカーラは、独自に調べを進めるのだが……。現代社会の縮図といふべき“学校”を舞台に、若き女性教師の悪夢のような極限心理をあぶり出すサスペンス・スリラー。本年度アカデミー賞国際長編映画賞ノミネート作品。

上映情報のご確認はこちら——
アップリンク京都 <https://kyoto.uplink.co.jp/>
京都市中京区烏丸通小路下ル場之町586-2 新風館 地下1階 ☎ 075-600-7890

PICK UP NEWS

障害のある作家の作品を扱うギャラリー「art space co-jin」

今春は、5名による写真展開催！



京都市上京区・荒神口にある、障害のある人の作品や表現に出会えるギャラリー「art space co-jin」。その名には、荒神口(こうじんぐち)の読み方にちなみ、coは「共」、jinは「人」の文字が持つ意味も込められています。運営は、きょうと障害者文化芸術推進機構(事務局 京都府障害者支援課)で、絵画、写真、陶芸、インスタレーションなど、さまざまな企画展やイベントをしています。

4月12日から始まる展覧会「Co-pic」は、5名の作家による写真作品の企画展です。レンズは外の世界を見るための窓ではなく、シャッターを押す時に左手をかけるためのちょうどよい突起物であるとする、山口慧太郎。コピー機で、自身の顔を複写するという衝撃的な行為を20年続ける、井口直人。思い出のある写真を愛でるように触れ、風合いを変化させる、杉浦篤。日々自身のファッショントを記録する、中田啓瑛。写真が他者とのコミュニケーションの一つである、米田祐二。それぞれの個性あふれる表現の違いを楽しんでください。

Co-pic

2024年4月12日(金)～6月23日(日)／10:00-18:00／月曜休廊／入場無料
art space co-jin (住所:京都市上京区河原町通荒神口上ル宮垣町83 レ・フレール1階)

主催:きょうと障害者文化芸術推進機構 art space co-jin

協力:社会福祉法人 さぶらん会 さぶらん生活園、社会福祉法人 みぬま福祉会 工房集、一般社団法人 ヴァリアスコネクションズ ツナガリの福祉所

アドナースpresents **私が半径5mで見つけた
おすすめスイーツ**

アドナース
音楽療法センター
三好日帆



ジブリ大好き！の私がオススメするのは東京にある「白髭のショーキーモ工房」のショーキーモ。可愛いだけでなく、味もとっても美味しいんです。旅行のお供にいかが？

